

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
<b>1. 理念の共有</b>						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	共同生活住居において明るい家庭的な雰囲気の中で日常生活のお世話及び生活リハビリを行うことにより入居者が有する能力に応じた生活ができるよう入居者の意志及び人格を尊重し、明るい笑顔のたえない雰囲気作りを念頭において運営を行う。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて管理者・スタッフが理念を共有できるように話し合いの場をつくり、取り組んでいる。		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	町内会長・自治会長に施設のこれまでの経緯を説明し、今後円滑な交流につながるよう努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周辺地域への買い物や散歩を通じて、顔見知りの関係になれるよう努めている。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・町内会への加入、地域行事や地域活動に参加、取り組んでいる。	○	自治会・町内会への加入、地域行事や地域活動に参加。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施していない		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		○	今後、自己評価ならびに外部評価を活用して改善に取り組んでいきたい。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		○	運営推進会議を早期に開催し、意見交換やサービス向上を図っていきたい。
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	常に市町村と連携を図り、サービス向上に取り組んでいきたい。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	職員研修や勉強会の機会を持ち利用者に必要なスキルを活用できるように取り組んでいきたい。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これまで施設内において虐待事例に遭遇した事実が無い。また、入浴時、朝・夕などの着衣交換時に皮膚や身体状況について職員相互に確認する体制であり、防止確認に努めている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
<b>4. 理念を実践するための体制</b>						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図って	契約書ならびに重要事項説明書に沿って説明を行っている。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	朝・夕のミーティングにおいて利用者からの訴えや行動についての情報を共有することにより、日々の介護業務への反映を図って		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況全般、健康状態等、個々人の状況に応じて電話又は面会時に報告を実施している。但し、緊急時においてはその限りではない。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		○	施設内に意見箱を設置する、各居室にノートを用意し連絡やご意見を記入していただける体制に努めていきたい。
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		○	定期的に職員面接等の機会をも設け、自由に意見交換ができる職場の雰囲気作りにも努めていきたい。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各種イベントや職員個々の都合と照らし合わせながら勤務表を作成中であり、職員補充策については、施設単体だけでなく、本社にて法人対応としても実施している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者の関係性を崩すことがないように、日々の業務推進状況を確認している。また異動の際には必ず本人の意志確認を取ったうえでの判断(本社)として対応して		
<b>5. 人材の育成と支援</b>						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面接等を通じて個々人の能力状況ならびに習得希望スキル・資格などを確認し、適宜の研修参加を促している。		
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設のデイサービスセンターならびに同法人内の隣市の施設とは職員相互の勉強会などを実施し情報の共有に努めている。	○	地域の社会福祉協議会などが主催する研修会などへの参加を促していきたいと考えている。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務終了時などに個別に声かけを行う、表情・動作を確認するなどは通常でも実施しているが、具体的な環境設定(システム構築)には至っていない。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤怠記録の管理、普段の言動内容の確認、将来の方向性などを勘案して個別の働きかけができるような支援に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の状況に合わせた面談を実施し、ご家族やケアマネジャーからも情報を改めて頂くなど、状況改善を図れる体制づくりに努		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	市内の居宅支援事業所との確認(営業)を行いつつ、随時、問い合わせの電話相談に対応している。相談者の都合に合わせて施設見学の日程調整を行い、連絡が滞った場合には施設から電話連絡にて対応して		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を把握して、介護認定状況、サービスの利用内容・方法等の個々の状況に合わせた対応を実施している。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所(7日間)の実施により安定化を図っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の下ごしらえ、調理、後片付け等、お互いに支え合いながら、日常生活を共に過ごし、信頼関係を築いている。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって必要なことを家族に相談し、家族を取り込みながら共に信頼関係に導いていけるよう実施している。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族にとって今必要なものを見極め、関係を良好に保てるように又は修復できるように支援している。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの信頼があれば家族へ相談し、馴染みの人との面会の機会を設ける、または場所への外出を支援、手紙の発送などの支援に取り組んでいる。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常作業、レクリエーション等を通じて利用者同士の関わり合いが保てるように努力している。	○	認知度の重い利用者が孤立しないように個々の状況に合わせた作業内容やレクリエーションへの取り組みを行う。
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	該当者なし		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
<b>1. 一人ひとりの把握</b>						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の状態に合わせて希望や意向を最優先にしてケアプラン作成に取り組んでいる。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用歴、ケアマネジャーからの情報収集、家族・本人からの生活歴等、可能な限りこれまでの生活に関する情報の集約に努め、生活状況の把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄パターンや日々の生活パターンを把握して、必要に応じて記録をとり、職員からも情報確認を行い総合的な状況把握に努め		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者・家族との話し合いの機会を積極的に持ち、希望や意見を取り入れた介護計画の作成を実施している。	○	
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成して	緊急性が高い場合は家族に状況を報告し、都度状況に合わせたケアプランの修正・変更作成を行う。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者が個別に日常の記録を残し、定期的な見直しの際に生かしていく体制とする。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスセンターでのレクリエーション参加など事業所の多機能性を生かした支援体制を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者本人の意向・希望によるものではないが、ご家族様とのつながり、地域の中でのつながり等の中からボランティア等の協力支援を頂いており実施している。	○	町内会・自治会への加入に伴い、地域でのイベント等の参加にも積極的に取り組んでいくこととしたい。
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	本人の必要性に応じて、民間サービスの導入も視野に入れて期待に応えていく体制としたい。
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	該当者なし	○	今後、ご利用者本人のニーズ・必要性に応じて協働していきたい。
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問歯科、訪問皮膚科との協力体制を構築済み。他科診療については基本的には家族対応にて依頼している。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	サービス利用時(体験入居含む)、継続的な専門診療の必要性に応じて行っている。		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をし		○	看護ステーションとの契約を検討し、日常の健康管理を図っていきたい。
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連	協力医療病院の医療相談室等、関係者との連絡調整を行いつつ、入院者の情報交換に努めている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状態に合わせて家族との話し合いの場の設定を実施している。	○	次回以降のケアカンファレンス時に実施していく予定。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当者なし	○	利用者の状態に合わせてチームとしての支援体制の構築に取り組んでいきたい。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族にはもちろんのこと、ケアマネジャーや医療関係者とも必要な限り情報収集に努め、家族とも積極的な意見交換の場を設定してダメージの軽減に努めている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>						
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族にはもちろんのこと、ケアマネジャーや医療関係者とも必要な限り情報収集に努め、家族とも積極的な意見交換の場を設定してダメージの軽減に努めている。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の能力に合わせた説明方法を実施して納得して暮らしていただけるような支援体制を実施している。	○	重度化した利用者に対しては、心の動き・感情的な動きを捉えることができるようにスタッフの教育を実施していき
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の勤務による人員配置にもよるが、可能な限り、本人の希望に沿った支援を実施できるように努めている。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容・訪問美容サービスの受け入れを定期的実施している。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人のエプロンを掛けていただき、本人の能力とその日の気分的状況を考慮したうえで、職員とともに準備～片付けを実施して頂いている。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好及びその時点での周囲の状況に合わせた支援を実施している。	○	たばこについては、喫煙所を設置することにより分煙として支援していき
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、ポータブルトイレからトイレへの自立など状態に応じた排泄支援を実施する体制に努める。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望と身体的な状況等に合わせた入浴回数(週1回・3回・毎日等)を実施して生活感のある支援を心がけている。	○	大浴場での入浴希望があり(現在は個室対応のみ)今後の取り組みの課題としていきたい。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の状況に合わせて自由に休息を取っていただき、眠れるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	例えわずかな時間であっても気分転換を図れるよう生活支援や外出など気晴らしなどの支援を実施している。		
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特別な場合を除いて、現金(小銭)を持てるように支援している。外出時の買い物など本人が自分で現金が使えるような支援体制を図っている。	○	利用者同士での現金の貸し借りがある場合が見られ、対応確認をしていき
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の職員配置によるが可能な限り本人の希望に添えるような体制を日々検討し支援している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		○	今後は専門店の入った大型スーパーやレジャー施設、温泉一泊旅行など、ご家族からの理解も得ながら実施していきたい。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人から依頼があった際にスタッフが電話をかける、又はFAXによる手紙の送信など活用して支援している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人・友人等、基本的に訪問者は自由であり施設としても区別は一切せずに対応している。適宜、リビングや相談室などを開放してゆとりを持って過ごしていただけるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる該当者は現在なし	○	今後の対応含めて、研修会・勉強会への参加、自主的な実施などの取り組みを実施していきたい。
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	本人が自ら室内から鍵をかけて休まれている場合以外は鍵はかけていない。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間、時間を決めての巡回時には様子観察、状態の把握に努めている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物品に関しては(他の利用者への配慮も踏まえて)保管場所を決めて常時施錠にて対応している。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々、勤務の合間に一人ひとりの状態確認を行うとともに目が離れやすい申し送りの前後にスタッフ同士が声かけをし情報共有に努めている。	○	職員一人ひとりが常にリスクマネジメントを念頭において業務にあたるよう心がけている。
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開設時を含めて、誤嚥時の対応方法、吸引ノズル、吸引機の使用方法について学んでいる。		
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現状においては、緊急時訓練が未実施にて避難などの対応方法が確立されていない。	○	町内会とも連携し、防災担当者を早期に選定、消防署とも連携して対応を進めていきたいと考えている。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	サービス開始時にリスクについては説明し、話し合いの場を持つように心がけている。常に家族と話をしながら対応策の検討を行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕の申し送り時に報告を行い、職員各自が情報の共有に努めるとともに緊急時対応についても確認するよう習慣化させている。また確認のために申し送りノートに記載し情報漏れのないように努めている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の変更については常に申し送り時に確認している。また薬剤の作用、副作用についても情報の共有を行い、利用者の症状・状況の変化に対応できるよう常に心がけている。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者一人ひとりに合った排泄(排便)コントロールを常に心がけている。水分摂取量の確認や体を使ったレクリエーションの実施、腹部マッサージなどの便秘予防に取り組んでいる。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科による定期的な健診を実施している。毎食後に本人の能力に応じた口腔ケアの実施を行っている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に水分量・食事の摂取量について記録し、毎日の状況把握に役立てている。		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	疥癬については発症した方がおり、医療機関、併設施設の看護師とも確認し、対応を実施している。	○	感染症に関する勉強会を全職員対象に実施し、拡散予防に努め一定の成果が得られている。
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の分別使用、調理後の機材の消毒に努めている。食材についても賞味期限等を確認して毎日、新鮮な物を使用するように心がけている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>						
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に木製の立て看板を設置して出入りしやすいと思われるような工夫に努めている。また出入り口付近を定期的に清掃するよう心がけている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事(正月・節分・ひな祭り等)に合わせて室内装飾に気を配っている。共用スペースには利用者の手による作品を設置するように心がけている。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には集団生活の場として設定されているが、独りになりたいとの雰囲気察したときは無理に輪に勧めることのないように配慮している。また相談室を自由に使えるスペースとして開放しており、ご家族対応含めて空間づくりの一つとしている。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が和まれるような私物(洋服ダンスや作品など)や生活環境に則した私物(仏壇など)室内のレイアウトは本人・家族に自由に設定・配置していただいている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時には必ず換気を実施している。トイレや浴室の温度調節は当然として、個室のエアコンについても巡回時などに適宜調節し過ごしやすい生活空間を提供できるように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下に適宜に利用できるように手摺りを設置している。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残存能力の確認を行うと共に、利用者一人ひとりの思いを大事にして、個別の生活パターンを把握できるように心がけている。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中央庭園において菜園や草花の栽培を行っている。また、自由にウッドデッキに出れる環境にして、目・肌でも季節感が楽しめるような配慮を心がけている。	○	菜園にて採れる季節野菜の収穫などを積極的に行っていきたい。



(様式1)

## 自己評価票

項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>		
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる
		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある
		①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている
		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている
		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている
		①ほぼ全ての利用者がある ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている
		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている
		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています
		①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている
		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98		職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない